

課題(問題)の解消
課題(問題)の克服

広島から主宰塾に通う塾生が代表を務める法人の「幹部養成塾」が始まった。各事業所からリーダー塾、次世代リーダー塾、サブリー

こと)するだけでなく、解消(今までの状態や関係、約束などが消えてなくなる)こと。また、それらをなくすこと、克服(努力して困難にうちかつこと)など、さまざまに引き出しを用意して、次への備えをする人は少ない。

知覚動考

転期に立つ経営の視座 ③

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。『介護ビジョン』編集委員。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「99の言葉の杖」(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

ダー養成塾を受講する職員が選抜され、各塾に共通した「事前課題」のレポート提出を求めた。

課題(課せられた課題のこと)を問題(問いかけて答えさせる題のこと)としてとらえられたらどうか。

課題(問題)を解決(問題やもつれた事件などを、うまく処理する

課題(問題)解決を効率優先で追い続けていると、課題(問題)解消、課題(問題)克服などの視点に気づく暇はないからだ。課題(問題)を解決するためには、課題(問題)の解消、課題(問題)の克服等にも心を配りたいものだ。

目標に向かって遮二無二汗をか

き続けるだけでなく、解決思考の幅を広げてゆくためにも用管窺天(狭い見識を基準にして、広大な問題について自己流の評価を下す)*1の箴言が紐解ける力を涵養することである。各塾に用意した「通年課題」は、それぞれ一筋縄で終わらないよう凝らしてある。試行錯誤しながら、創意工夫してほしい。

知覚(P)、動(D)、考(C)、A

禅語に「知覚動考」というものがある。

知は、知る事。
覚は、知った事を覚える事。
動は、覚えた事を行動する事。
考は、行動した事を考える事。

知った事を覚えて行動してみよう。その行動はどうだったのか、それを考えてみる事。振り返ると、修正点や改善点など、新たに知らなければならぬ事が現れる。それを覚えて行動に移す事。その結果を再び振り返って考える事。つまり、学んだ事を知った事、覚えてきた事として終わらせず、行動してみよう。結果のいかんを問わず、検証する事が考える事になる。

P D C A サイクル (Plan = 計画、Do = 実行、Check = 評価、Action =

改善)を知覚(P)、動(D)、考(C、A)に置き換えて、職場の一人ひとりが成長するために自分の足元をおろそかにしないという覚悟のもと、脚下照顧*2に励み続ける姿勢を大事にしたい。

いくら学んで知ったとしても、そのことを覚えたとしても、考えばかりが先行するだけでは、動くことすらままならない。

再度となるが、課題(問題)解決の能力を研ぎ澄ませるためには、課題(問題)解消、課題(問題)克服の視点をおざなりにしてはいけない。

なかには、そのような課題(問題)に取り組むこと自体に無理がある。その前にやるべきことが山のようにあるなどと言いつつばかりが先行して課題(問題)を回避してしまう人がいる。

※ 仕事は段取り八分*3

上に立つ者は、自らと周りの仲間の意識とその意味づけを鼓舞するために「率先垂範」と「率先躬行」*4が不可避である。

リーダーは、ともかく動こう(知覚動考)と声を出そう。

「走りながら考える」に通じる「知覚動考」を倦まず弛まず実践し続けることである。

*1:「99の言葉の杖」(日本医療企画、2013年、p26-27)参照

*2:「99の言葉の杖」(日本医療企画、2013年、p172-173)参照

*3:本誌2014年4月号本欄参照

*4:「99の言葉の杖」(日本医療企画、2013年、p76-77)参照